

第23回 岐阜シンポジウム

「宇宙の歴史を読み解く」を開催しました

平成23年11月5日(土)

地球や社会全体が抱える環境・バイオ・情報・教育などの21世紀の重要テーマについて、岐阜大学の研究成果を社会に広く発信する「岐阜シンポジウム」。

23回目の今回は、宇宙航空研究開発機構(JAXA)の藤村彰夫参与をお招きして特別講演を開催。「『はやぶさ』のカプセルにはいついたもの」と題して、小惑星「イトカワ」から帰還したはやぶさにまつわる貴重なエピソードをお話いただきました。イトカワヘタッチダウンした時のアクシデントやカプセルの中

身が空だった話なども披露。「目視できるものが何もなかったカプセルから、2カ月以上かかって人工物とは違う粒子を見つけた時は、本当にホッとした」と、当時の苦勞を紹介されました。

教育学部の川上紳一教授と工学部の宮坂武志准教授も、地球の歴史や「はやぶさ」に使われたイオンエンジンのしくみについて講演を行いました。質疑応答では、小学生から70代と幅広い世代の方から質問が相次ぎ、とても有意義なシンポジウムとなりました。



第10回 岐阜大学学生企業展を開催しました

平成23年12月10日(土)・11日(日)

学生が企画・運営する「学生企業展」が記念すべき10回目を迎え、今年度は2日間にわたり開催。10日は約600名、11日は約500名の学生が来場し、参加企業156社の中からお目当てのブースを訪問し説明を受けました。

東日本大震災の影響や近年の不況により、学生の就職活動や企業の採用活動の状況は依然として厳しい状況です。そんな中でも学生たちの就職意識は高く、各企業ブースで真剣に説明を受ける姿が多く見られました。東海地方を拠点に活躍している企業が

多く、地元での就職志向が強い岐阜大学生にとって大変好評でした。「岐阜大学生のみが対象なので少人数で話を聞くことができた」、「就職活動に対する不安や疑問も解消できた」と参加者たち。学生のみで企画・運営する企業展は全国的にも大変めずらしく、実行委員会の学生たちも活動を通して多くの企業の方と接触することができ、自身の就職活動の充実にもつながっています。

報告：岐阜大学学生企業展実行委員長
山崎友梨(当時3年)



第3回 DREAM PROJECT 表彰式

平成23年11月6日(日)

日頃思い描いている夢や希望を実現するための「環境・健康」をテーマとしたアイデアを募集する「DREAM PROJECT」の表彰式が行われました。最優秀賞に工学部生命工学科の西岡真弘さん(当時4年)が選ばれ、岡野幸雄理事から表彰状と副賞が、株式会社コンティグ・アイの山田博子取締役から記念品が手渡されました。西岡さんのアイデアは「アスファルトの熱を利用した発電法」。「素晴らしい賞をいただき事ができ、とてもうれしく思っています。次回はぜひ皆さんも応募して下さい」と喜びを語りました。



災害時等の支援協力に関する協定を締結

平成23年11月24日(木)

災害時の被災者等支援に協力することを目的に、県内の大学等高等教育機関(26機関)とともに岐阜県と協定を締結しました。



大規模災害発生時に体育館やグラウンドを提供することなどを取り決めたこの協定。古田肇岐阜県知事は「効果的できめ細かな支援体制の構築に努めたい」と述べ、森秀樹学長は「県民のために支援協力体制をスタートでき、大変うれしい」と話しました。締結式には、勝野眞吾岐阜薬科大学長、大西健夫中京学院大学長、藤井德行岐阜聖徳学園大学短期大学部学長も出席されました。

第63回 岐大祭 テーマは「パレット」

平成23年11月3日(木・祝)～6日(日)

「岐大祭」は、学生の正課研究や学術文化活動及び課外活動の祭典です。取り組みの成果を学内外に発表し、より発展させる機会を作る場として、毎年学生が自主的に企画・運営をしています。

人と人との交流が絵画のパレットに似ているのでは?という意見から、今年はテーマを「パレット」に決定。当日はゼミやサークル、各有志たちが研究発表や模擬店を行い、お笑い芸人による屋外ライブなど趣向を凝らしたイベントも行われました。たくさんの方々にご来場いただき、ありがとうございました。



男女共同参画推進シンポジウムを開催

平成23年12月7日(水)

12月7日(水)に開催した「男女共同参画推進シンポジウム『男女共に学びやすく働きやすい大学をめざして』」に、学内外から約180名の方々にご参加いただきました。基調講演では、内閣府男女共同参画会議専門委員の渥美由喜氏が「男性にとってのワーク・ライフ・バランス 男女共同参画」と題して講演。パネルディスカッションでは、林正子男女共同参画推進室長をコーディネーターとし、渥美氏、村瀬忍教育学部教授、大屋賢司応用生物科学部准教授、元平佳作人事労務課長が討論を繰り広げました。



第31回 岐阜大学フォーラムを開催しました

平成23年11月2日(水)

本学で定期的に行っている一流の研究者による講演会。11月2日(水)に、「第31回岐阜大学フォーラム『清流長良川と黒い津波—作家による水環境論—』」を開催。

岐阜市出身の作家 松田悠八さんが、生まれ育った「清流長良川」の風景や東日本大震災で東北地方を襲った「黒い津波」など、水にまつわるエピソードを紹介しました。

また、自作の俳句「鶏鳴といふ奇跡あり水見舞」を読み上げ、「鶏が鳴くという何でもない日常が、奇跡であると感じられるかどうか問われている」と語りました。



特別支援学校生の就労支援に関する覚書を締結

平成23年11月1日(火)

応用生物科学部は、岐阜県教育委員会との間で特別支援学校生の就労支援などに連携協力する覚書を締結しました。同学部附属岐阜フィールド科学教育研究センターを活用し、障がいのある生徒の自立と社会参加や共生・協働社会の実現に関して実践的な連携協力を行うことが目的。金丸義敬学部長は「この地域貢献がよりよい方向に向かうよう努力していく」、松川禮子教育長は「特別支援学校生は高校生を中心に毎年増加しているため、この連携は職業教育の充実に大変心強い」と話しました。

医薬品医療機器総合機構と協力協定を締結

平成24年1月11日(水)

独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)との間で、教育研究に関する協力協定を締結しました。大学院連合創薬医療情報研究科の学生がPMDAの職員による授業を履修したり、PMDAで実務を行いながら研究指導を受けることが可能になります。

近藤達也PMDA理事長は「医療機器分野で国内の大学との協定は初。産業界が安全な医療機器を開発する原動力としたい」と述べ、森秀樹学長は「医療機器の研究開発は国家的なプロジェクト。優秀な人材を輩出し社会貢献していきたい」と抱負を語りました。

平成23年度 学位記授与式を行いました

平成24年3月25日(日)

長良川国際会議場において平成23年度学位記授与式を行い、学部学生1,283人、大学院学生582人が卒業・修了しました。卒業・修了生に向け、森学長は「夢、志を持ち続けること、どんな環境でも生き抜くたくましさを持つこと、地道な努力を怠らないこと」と言葉を贈りました。卒業生代表の応用生物科学部豊吉優希さんと修了生代表の同研究科山内恒生さんが「人のため、社会のために何が出来るかを問いながら行動していきたい」「逆境に屈せず、力強く明るく、一歩ずつ進んでいきたい」と決意を語りました。



秋の叙勲 受章者を発表

平成23年11月3日(木・祝)

平成23年秋の叙勲受章者が発表されました。叙勲は、国家または公共に対して功労のある人や社会の各分野において優れた行いのある人を表彰する栄典の一つで、春と秋に実施されています。本学関係の受章者は、次の方々です。

瑞宝重光章(教育研究功勞)

黒木 登志夫 岐阜大学名誉教授(前岐阜大学長)

瑞宝中綬章(教育研究功勞)

有馬 泉 岐阜大学名誉教授(元岐阜大学工学部教授)

水崎 節文 岐阜大学名誉教授(元岐阜大学教養部教授)

中部学院大学・中部学院大学短期大学部との連携協定を締結

平成24年2月10日(金)

応用生物科学部が中部学院大学・中部学院大学短期大学部と連携協定を結びました。平成22年度から中部学院大学短期大学部幼児教育科学学生の農業体験学習や技術指導、両大学教員による農業と福祉の境界領域での共同研究を行っており、教育研究分野での交流・共同事業に取り組んでいます。今後は、両大学の教育研究の向上・充実を図るとともに、福祉系大学である中部学院大学短期大学部の協力を得て、障がい者教育に大きく寄り、社会福祉への貢献を一層推進していきます。



課外活動に対する理事表彰式を実施しました

平成24年3月7日(水)

本学では、学生の課外活動の健全な育成と活性化を図るため、課外活動において優秀な成績等をあげた団体又は個人について表彰を行っています。3月7日(水)に12団体と個人26名の表彰者に、表彰状と副賞が授与されました。岡野幸雄教学担当理事は「皆さんの活躍を大学としてもうれしく思っています。今後も更なる活躍を期待しています」と挨拶。受賞者を代表して、陸上競技部の山本紗綾さん(教育学部3年)は、「学業に加え、競技成績を伸ばすよう一層努力したい」と抱負を述べました。

環境マネジメントシステム(ISO14001) 認証範囲が拡大

平成24年1月10日(火)

岐阜大学では、平成21年に「環境ユニバーシティ宣言」を行い、環境に配慮した大学づくりに取り組んでいます。その一環として、環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」の認証範囲を順次拡大しています。今回、認証の継続と環境方針を達成するための活動が認められた教育学部、附属小学校、附属中学校への範囲拡大の登録が完了。1月10日(火)に審査登録証の授与式が行われました。林正子副学長は「より一層の環境対策を進め、環境教育・研究の推進に取り組んでいきたい」と話しました。